

日本厚生協会の活動に 関する一考察

○谷戸一雅（余暇問題研究所）

橋本和秀（余暇問題研究所） 高橋和敏（東海大学）

キーワード：日本厚生協会、活動、社会情勢、レクリエーション運動

1. はじめに

日本厚生協会（以下協会と略）は、昭和13年4月に設立をみた。周知のとうり、わが国に初めて組織されたレクリエーション運動—当時でいうところの厚生運動—推進のための団体でありその中心的存在であった。また、今日のレクリエーション運動の原点であることに異論はないだろう。協会の設立過程、経緯、理念や運動方針などについては、磯村の「厚生運動概説」¹⁾、日本レクリエーション協会20年史²⁾ および同30年史³⁾を通じて知られている。また次に示すような、協会や厚生運動に関する調査研究もみられる。

1)戦前の「厚生運動」について

月刊レクリエーション編集部 月刊レクリエーション 1964年10月

2)厚生運動の一考察 —特に社会情勢とのかかわりにおいて—

坂口正治、高橋和敏 第8回日本レクリエーション学会大会 1978年

3)東京朝日新聞掲載記事による厚生運動の研究

坂口正治 東洋大学短期大学紀要 1980年

4)娯楽と教育 —厚生運動と「娯楽」のすすめ—

その ひろし 月刊レクリエーション 1982年12月

5)「厚生の日」にみる厚生運動の歩み

石川弘義 成城大学コミュニケーション紀要 1985年

6)日本厚生協会設立までの経緯

沢村 博 第16回日本レクリエーション学会大会 1986年

7)戦後レク運動史—2 三隅資料・証言にみる戦後レク運動の

キーマンたち
高橋和敏 月刊レクリエーション 1993年5月

これらの資料によれば、その多くは協会の設立過程や性格等を中心に検討が加えられたものと言えよう。協会の具体的な活動内容について触れたものは少ない。したがって、レクリエーション運動の出発点ともなった協会の活動内容を調査することはひとつの重要な課題であると考えられる。

そこで今回は、協会の関連資料にもとずき活動内容を紹介するとともに、当時の社会情勢下における活動の特色を見いだそうと試みた。それはまた、今日のレクリエーション運動の基礎を知るうえで意義あるものと思われる。

2. 調査対象とした資料

調査の対象とした資料は、1)日本厚生協会要覧⁴⁾ 2)大阪市厚生協会概要⁵⁾の二点とした。以下にこれらの資料に記録されている活動内容の一部とその概要を示す。

1)日本厚生協会要覧(昭和16年6月25日発行)の昭和十五年度事業概要より抜粋

一. 第一回全国勤労者厚生大会(音楽ト体操ノ競演会及合同大会)

昭和15年5月5日、日比谷公会堂で行われた。前出日本レクリエーション協会20年史にも述べられているが、体操、合唱、吹奏楽の各部門に合計26の団体が参加したコンクールであった。

一. 巡回映画音楽及舞踊ノ会(東京市内公園ハヶ所、映画ハ東和商事、音楽ハビクター提供)

8月に8回開かれた。参加者は各回5000-12000名と記録されている。

一. 日独伊厚生運動大講演会 十月三十日(共立講堂)参加者三千三百名

講師として伍堂卓雄会長、他に当時大阪市で開催されていた興亜厚生大会に参加していたドイツ、イタリアの代表団からも講師を招いている。

一. 厚生歩行会

4月から翌年3月までに19回実施されている。伊豆大島や房総、箱根、日光方面などほぼ関東一円を行動範囲としていた。参加者は少ない時で70名多い時は1500名と記録されている。

一. 音楽部会設置(七月)

その主旨は「音楽ヲ通ジテ国民厚生ノ実ヲ挙ゲル目的ヲ以テ協会ニ音楽部会ヲ設置ス」とみられる。厚生音楽レコード推薦、ハーモニカ講習会を実施していた。

一. 施設部設置(昭和十六年一月)

その主旨は「厚生施設ノ普及発達ニ依リ国民厚生ノ実ヲ挙ゲル目的ヲ以テ協会ニ施設部ヲ設置ス」とある。厚生施設講習会の開催や公園、企業の厚生施設の視察およびその基本設計図作成などを行っていた。

2)大阪市厚生協会概要(昭和14年11月発行)の大阪市厚生協会事業の概況より抜粋

・市民厚生日ハイキング大会

昭和13年10月より毎月2回(第一、三日曜日)実施された。当日は大阪市近郊の私鉄7社では普通運賃の4割引を実施していたと記録されている。

・第一回大阪百貨店女子従業員連合厚生体育大会

大阪市内の百貨店女子従業員1500名が参加して行われた。大会ではラジオ体操第一をはじめ、婦人愛国の歌、防火バケツ運搬競争、救助輸送競争、など当時の世相を反映した種目が実施された。

・市民厚生船

資料によれば「淡路島の数ある史跡に昔を偲ぶ者・・・略・・・三熊山麓の閑静な臨海學舎で午睡を楽しむもの・・・略・・・喜々として船上遊技に齡を忘れて打ち興ずるもの等今日一日を明日に備える厚生の効果を遺憾なく発露

してわが大阪港に帰った。」とある。厚生船は年4回実施され毎回500名を定員としていた。

- ・市民厚生列車
特別列車を用意し温泉行を実施した。
- ・市民魚釣厚生大会
特別列車を用意し市民の釣り大会を実施した。
- ・市民体操指導者養成
約1カ月の講習期間に体操理論指導法の実習などを行い、指導者は毎朝のラジオ体操、四季の心身鍛錬運動、毎月のハイキング、町会の厚生体育大会、幕営生活の指導などにあたった。

以上のほかに直接協会の活動とは関係しないが、協会職員が指導にあたったプログラムの一例を紹介する。

昭和16年度国民体力向上修練会（第二期）⁶⁾より一部抜粋

回数	体操	厚生遊技	時間
第一回目	1)大日本青年体操 (前半) 2)胸部拡張運動 (各種)	1)円陣鬼 2)ジャンケン鬼 3)五人五脚 4)勤労奉仕	三時間
第二回目	1)大日本青年体操 (後半) 2)胸部拡張運動 (各種)	1)場所取鬼 2)盲目剣法 3)四人綱引 4)敵前潜行	三時間

3. 考察

以上の資料から、当時の時代背景を照らし合わせ活動内容の考察を進めたい。まず、当時の社会情勢であるが、協会の設立と時を同じくして国家総動員法が成立。これは「経済活動をはじめ、労働、言論等々に関する広範な統制の権限が一括して政府にゆだねられた」⁷⁾とみられるように、社会生活の様々な面で規制が設けられた時期であったと言えよう。

さらに協会については「厚生省関係の外郭団体として助成金を受けて活動を続けていたのであったが、厚生運動担当の課長を常務理事、関係局長が理事長の職に就く例となっていた。従って当該局の分掌種目や方針が大きく影響した・・・略・・・協会の事業の大部分が体力増進を目指すものであった。」⁸⁾と述べられている。また厚生省の設立主旨がそもそも「国民体力の向上」⁹⁾にあったことを加味すれば、協会の活動の多くは厚生省ひいては政府の意向に従わざるを得なかったと言えよう。換言すれば、行政の体力向上策の一環として協会の活動が利用された面があったと見てとれよう。

このような情勢下において、歩行会、市民ハイキング、各種厚生体育大会等が目立って開催されたことは、まさに時代の要請であったのだろう。

4. まとめ

今回の調査から得られた事項は次のようになる。

- 1) 活動内容をみると、名称に違いはあるが現在行われているものと同様の活動が多くみられる。このことは、社会情勢が変わっても活動に対する人々の基本的ニーズに大きな変化がないことを意味している。
- 2) 行政の関与によって体力向上を目的とした活動内容が多い。これはまさに時代の要請に従ったものである。
- 3) 同じ活動種目であっても、その時代の情勢によって利用のされ方が左右される。これは、レクリエーション・プログラムの立案あるいは活動を実施する場合は、その根底にある思想の重要性を示唆する。

協会としては「余暇の善用」を目的に掲げ、その展開を図ろうとしていた。ただし協会の生い立ちからして、行政主導の域を脱することは困難であったろうし、活動上での制約も多々あったであろう。しかしながらそのような厳しい時代にあっても、協会が今日でも通用しうる活動を実施し、レクリエーション運動の基礎を築いた功績は深く銘記されるべきである。

----- 引用・参考文献 -----

注

- 1) 磯村英一 厚生運動概説 常盤書房 昭和14年
- 2) 日本レクリエーション協会20年史 昭和41年
- 3) 日本レクリエーション協会30年史 昭和52年
- 4) 日本厚生協会要覧 日本厚生協会 昭和16年
- 5) 大阪市厚生協会概要 大阪市厚生協会 昭和14年
- 6) 国民体力向上修練会（大阪府の部）資料 昭和16年
- 7) 中村隆英 昭和史Ⅰ 東洋経済新報社 平成5年
- 8) 2)におなじ
- 9) 磯部 実 国民厚生運動の理論と実際 第一書店 昭和16年